

e-dream-s通信

e-dream-s ホームページ <http://www.e-dream-s.org>

No.34 発行：2003年5月11日特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次	1 ネットワーク	辻荘一	p2
	2 広報活動の必要性：チャータースクールの場合	井川好二	p4
	3 Board of Trustees	中川房代	p8
	4 カメルーン・ピグミーとの出会い(その1)	山田昌子	p10
	5 ECAP 実行委員会報告	塚本美紀	p14
	6 ECAP 第2回事前学習会報告(大阪)	稲川宏美	p15
	7 ECAP 第2回事前学習会報告(東京)	岡田かおる	p17
	8 お知らせ		



A Typical Japanese Breakfast 1・日本の典型的な朝食(にほんの てんけいてきな ちょうしよく) ©e-dream-s

日本語学習者のための写真サイトの「オンデマンド日本写真アーカイブズ」が5月にオープンしました！ これはその中の一枚。写真の説明は日本語、英語の両方があります。

<http://www.aglance.org>

ネットワーク

辻 莊一

e-dream-s のキーワードの一つは「ネットワーク」です。「ネットワーク」とは私たちの始めた事業を通じて様々な分野の人と連携し、事業の発展や新しい事業へと繋げていくことです。今回は「ネットワーク」について、比較的人の姿の見えにくい@aglance 事業の関係者を紹介すると言う形で書きたいと思います。まず、有給スタッフから。

高力敦さん

私たちの様々な、時には矛盾する要望に応じて、教育用海外写真サイトとオンデマンド日本語教育用写真サイトの二つのサイトをプログラムし、画像の分類やスキャンも含めて日々の更新作業を行っています。華麗なオープニングムービーや、検索エンジンもすべて高力さんの手によるものです。2年前海外写真サイトの準備をしていた時、大量の画像を使いやすく取り出しやすい形で収蔵する技術を持つウェブデザイナーを探していました。思いの外、難しい条件だったようで適当な会社や人がなかなか見つかりませんでした。初めて喫茶店で話をした時に、これはできますか、あれはできますかという私の質問にすべて「はい、できますよ」と即答していただいたことが強く印象に残っています。

山本美貴さんと浜崎由美さん

海外写真は毎日10枚の更新ですから土曜の休みを入れても月に約260枚の写真を処理する必要がありますが、その画像の選定とキャプション作成を担当していただいています。基礎的なデータは撮影者から提供されますが、さらに詳しくネットや書籍で資料に当たり、短く分かりやすい表現でまとめています。5000に届こうとする大量の画像に加えてこのキャプションの質が@aglance の重要な特徴となっています。山本さんは、ネット上の求人サイトでキャプション作成者の募集を行ったときに応募していただいた方の一人です。提出していただいた自己紹介文は群を抜いて誠実な印象でした。文章の質については日々の新着写真のキャプションを読めば分かりますね。山本さんはこの仕事を始めるに当たって、e-dream-s が怪しい団体ではないかと相当心配だったようで、山本さんの方から私の自宅に電話がかかってきました。まあ、無理ありませんね。浜崎さんは、山本さんの紹介で山本さんの出産時のヘルパーとして入っていただきましたが、その後も二人態勢でやっていただいています。人柄は山本さんの紹介と言うことで安心していましたが、あれほどカラオケが上手いとは思いませんでした。

次に写真提供者の方々です。本当にたくさんのかたがたにご協力頂いていますが、今回は4人だけ紹介します。

井村康雄さん（259枚）

長年モンゴルと草の根交流を続けられています。ちょっとモンゴルに行ったことがある、では絶対にとれない写真ばかりを提供していただいています。

佐橋壽郎さん（72枚）

一目で分かるプロのクオリティの写真を提供していただいています。ヨーロッパ全般とインドネシア・トルコ・中国などカバーした国はダントツ1位です。

川村卓正さん（32枚）

「おまかせ！教師のパソコン」の編集長。@aglanceを紹介していただいただけでなく写真も提供していただいています。特にインドネシアのテロの写真とレポートは印象深いですね。

ryojiさん（813枚）

まだ処理中の写真がありますので、1000枚をこえるダントツの画像数です。1000枚以上の海外写真を持つサイトをお持ちでメールで画像提供をお願いしたところ快く承諾していただきました。

この他にも多くの方の協力を得て@aglanceは運営されています。5月に正式オープンしたばかりオンデマンド日本写真サイトについては日本語教育関係者の方々からの反響が大きく助言をいただいたりネット上や会合で紹介していただいたりしています。ボランティアカメラマンの登録や画像提供の申し出もありました。特に、掲示板に書き込んでいただいた根津誠さんには@aglanceを紹介していただいただけでなく、日本語教育用の教材サイトやキャプションの日本語レベルを判定するツールを教えてくださいました。日本語キャプションのひらがな全訳をやめたのは根津さんのアドバイスによるものです。

さらに、英語とのバイリンガルのサイトにしたことで、海外からのアクセスも増加しつつあります。

@aglanceの運営に当たっては他の団体・組織・個人とのネットワークが大変重要な訳ですが、これは@aglanceだけでなくe-dream-sの活動全体に言えることです。一人ではできないことには限

りがありますが、二人でやれば $1 + 1 = 2$ 以上のことができます。健全な財政基盤と事業内容の充実に加えてさらに「ネットワーク」を広げることがe-dream-sにとっての重要なテーマの一つなのです。

e-dream-s.come.ture

広報活動の必要性：

チャーター・スクールの場合

井川 好二

Beth は、ポツチャリとした笑顔が可愛い30代。アメリカ東海岸にある郊外住宅地に住む、ごく普通の白人女性に見えるが、West Chesterにある Collegium Charter School の創設者の一人。現在、学校の広報担当役員をつとめている。機械関係の仕事をする、歳下の夫との間に一児。

広報担当、つまり Public Relations¹、とは、どういう仕事かと云うと、まだ新しいこの学校に対する社会の認知度を高め、ユニークな教育内容をよりよく理解してもらい、生徒募集につなげると共に、企業や団体からの寄付金や助成金を集める活動を行う。

こうした広報活動は、チャーター・スクールにとって必須の機能と云え、その働きいかんによって、経営が左右される重要な部門だと思える。

近年、全米各地に広がっている新しいタイプの学校、チャーター・スクール²は、公立学校である。ちなみに、アメリカの公立の小中高では、授業料をとらない。チャーター・スクール

¹ [U sg] 広報 (活動[業務]), パブリックリレーションズ, ピアール《会社・組織・個人などが、自分たちの活動内容などを一般の人びとによく理解してもらうために行なう活動[はたらきかけ]; また, そうして達成された一般の人びととの関係(の良好さ); 略 PR》; 広報部, 広報担当組織.

・ a public relations officer 広報官[係], 広報部職員《略 PRO》[リーダーズ+プラスV2]

² 井川好二 (2003)「チャーター・スクールとは何か?」Osaka: e-dreams. 参照。

も、公立学校であるから、生徒から授業料をとってはいけない。だから経営に必要な運営経費は、連邦政府、州政府、地方自治体の3者の予算から支出される。

単純化して、どのくらいの予算かと云うと、まず、その地域の、普通の公立学校に通う生徒の一人あたり、年間幾らかかっているかを算出する。一人あたり金額に、そのチャーター・スクールに通う生徒数に掛ける。例えば、その学区で生徒一人あたりの経費が、600,000 円で、今年度の生徒数が、500 名なら、3 億円が、その学校に支給される年間予算となる。

学校は、この3億円から、教職員の人件費を支払い、印刷製本などの教育研究費を払い、電話代、光熱水費、清掃費などの管理経費を払い、コンピュータなどの備品などを購入する。

もちろん、支出のうち、最大のものは人件費であり、その中でも、教員人件費が大きい。これは、人が人を教育するのが仕事である学校経営の中では、当たり前のことである。日本の学校経営の基準で考えれば、教員人件費を50%以下に押さえることが、健全経営に繋がると云われる。

アメリカのチャーター・スクールの経営に関して、以下の3つのディレンマがあるように思われる。

1. 設備費用の捻出： 税金から支給される運営経費だけでは、設備投資や減価償却の費用が捻出しにくい。生徒数が年々増えて、校舎新築、改修が必要なチャーター・スクールでは、そのための費用捻出が大きな課題となる。今回、訪問したペンシルバニア州にある2校のチャーター・スクールとも、生徒数増加による校舎・教室の確保が大きな問題であった。現在、フィラデルフィアの Community Academy of Philadelphia では、元は工場だった建物を改造し授業をしている。West Chester の Collegium Charter School では、廃校になったカトリック系私学高校の校舎を使用しているが、どちらも、この2～3年のうちに新しい校舎への移転を計画中である。しかし、その費用はどこから捻出するのか？
2. 質の高い教育を低コストで： 授業時間数や授業日数を増やしたり、少人数制クラスや個別指導を謳ったり、コンピュータ・IT 教育やバイリンガル・多文化教育を推進したりして、普通の公立校にはない、特色あるカリキュラムを行おうとすると、それらに必要な経費が、支給される額を上回って赤字になる、可能性がある。教育と云う「労働集約型

Labor-Intensive³」の産業においては、ユニークで質の高い教育を、いかに低コストで実現するかが、大きな課題なのである。一般には、チャーター・スクールの教員給与の水準は、普通の公立校の給与水準より、低いと云われている。つまり、教員の人件費を低く保つことが、コスト削減の手段となり、ユニークな教育の基盤となっているとしたら、そのやり方には、無理がある。

3. 生徒数の減少に備える： 生徒数の増減が、収入の増減に直結しているために、生徒数が増加したり、安定している場合には、チャーター・スクールの経営は、(1)で述べた状況は別として、つまり日常的な運営に関してそう大きく変化することはないだろう。しかし、問題は、何らかの理由で生徒数の大幅な減少が起こったときで、そうなると、チャーター・スクールの経営は一気に悪化し、倒産する可能性をも孕んでいる。つまり、生徒数の大幅な減少は、収入の大幅な減少となり、コスト削減を迫られる経営者は、リストラを余儀なくされる。教員数の削減、クラス人数の増加、授業時間数および授業日数の削減、今まで売り物だった特別プログラムの中止、などの予算削減案が実行されれば、翌年の生徒募集が好転するはずもなく、より収入が減少する結果となる。悪循環である。経営基盤がぜい弱なチャーター・スクールは、さまざまな理由から起こる生徒の減少に、備える体制とすることが必要である。例えば、隣街に新しいチャーター・スクールができた。今まで隣街からこのチャーター・スクールまで通っていた生徒 100 名のうち半数がその新しい学校に転校したとすれば、 $¥600,000 \times 50 = ¥30,000,000$ となって、3千万円の減収。しかし、その減少した 50 名が、全 12 学年の各学年から 4-5 名ずつの減少であったら、1 クラス 25 名が 20-21 名になっただけで、クラス数はそのまま、教員数もそのまま。さあ、その 3 千万円をどうする？

アメリカのチャーター・スクールを見学して、思うことは、fund-raising⁴とそれに向けた Public Relations の重要性である。(1) 校舎建設など、税金からの収入だけではできない設備投資を実行するため、(2) ユニークで質の高い教育プログラムを実現・維持するため、(3) 経営基盤を安定させ、生徒数の急減など不測の事態に備えるため、の fund-raising の必要性であり、そのための広報活動の重要性である。

むろん、fund-raising のための広報活動を、強化しなければならないのは、チャーター・ス

³ 人的労働の投入率が他の生産要素に比べて高い産業。農業・商業・サービス業・軽工業など。[広辞苑第五版図版付き]

⁴ n, a 《福祉事業・政党活動などを賄うための》基金[資金]調達(の)、寄付金集め(の)・[リーダーズ+プラスV2]

クールだけではなく、財政基盤のぜい弱な NPO 団体にも共通した課題と云える。新年度の e-dream-s の最重要課題の一つである。

Beth は、Collegium Charter School に、日本の NPO がはるばる見学にやってくると地元のマスコミに press release⁵をした。この機会を、Collegium の活動紹介の一端にするべきだと考えたのである。その結果、わたしたちが訪問した日、地元の新聞記者がやってきて、写真を取りインタビューをし、e-dream-s の学校訪問は後日記事になった。しかし、送られてきた記事を見ると、日本の教育の荒廃ばかりがやたら強調された論旨になっており、e-dream-s がなぜ、数あるチャーター・スクールの中から Collegium を選んだか、その訪問で何を学んだかは書かれていない。これでは、e-dream-s としても不満だし、Collegium としても広報的価値が低く、fund-raising には結びつきにくい。Beth はさっそく抗議と訂正要求の手紙を、新聞社に送ったと云う。その結果を期待したい。

もう一つの訪問校、Community Academy of Philadelphia では、この日本からの訪問を、積極的に広報活動にとりあげることではなかった。スラム街の真ん中であって、貧しい Latino の子供たちを対象するこの学校としては、日本の教育 NPO の訪問は、それほど広報価値はなく、fund-raising にも結びつきにくいとかがえたのであろう。しかし、日頃、この学校も、老練の校長を中心にしっかりと広報を行っている。最近も、生徒のサクセス・ストーリーが、フラデルフィアの代表的な新聞、The Philadelphia Inquirer にとりあげられた⁶。

Beth をはじめ訪問したチャーター・スクール 2 校の広報担当者の、さらなる健闘を祈ると共に、e-dream-s の新しいタスクとしての、広報活動と fund-raising の重要性を、改めて強調したいのである。(Saturday, May 10, 2003)

⁵ 新聞発表, プレスリリース (= (news) release) 《報道関係者に対する発表》
[リーダーズ+プラスV2]

⁶<http://www.philly.com/mld/inquirer/living/education/4697419.htm?template=contentModules/printstory.jsp> 参照。

Board of Trustees

中 川 房 代

5月24日～25日に、e-dream-sの理事会を開催する。設立から4年目に入り、理事会も第12回を数え、今回はちょうど新旧事業年度の節目にあたる。

NPO法では、3名以上の理事を置くことを義務付け⁷ているが、運営についてはそれぞれの法人の実情に合わせて定めることになっている。e-dream-sは、定款で、理事会の定義を「法人を代表する業務執行責任者」とし、また年2回以上の開催を規定している。私も理事として、理事会を主催・参加してきたが、e-dream-sにとっての理事会や理事の役割とは何なのだろうか。いくつか挙げてみる。

NPOのマネジメントに詳しい川北秀人さん⁸は、理事会についてこう述べている。

「アメリカで理事会の重要性が強く意識され、その拡充や育成についての具体的なプログラムが生まれたのは、わずかこの10年間のこと」であり、「社会からの期待が高まるNPOだからこそ、自らの社会的な位置づけ（ポジション）や方向を明示し、それを実績へと結びつけなければならない。その方向付けと、実績の確認は、理事会にとって最も基本的な役割」である。

また、全米NPO理事センター⁹は、「理事会の役割と責任」についてこう書いている。

1. 方針を決める
 - 目的（ミッション）と展望（ビジョン）を打ち立て、そこに焦点を絞り続ける。
 - 戦略的な方針の実施を確立し、監督する。
 - 組織の業務管理(management)を行う権限を委任する。
 - 組織の価値を明示し、守り、形を見せ、推進する。

2. 経営資源を確保する

⁷ 特定非営利活動促進法（1998年3月25日公布成立、12月1日施行）第15条

⁸ 川北秀人：IIHOE（人と組織と地球のための国際研究所）代表者、「NPOマネジメント」編集発行人、脚注3の監訳者

⁹ 全米NPO理事センター（National Center for Nonprofit Boards）：出典原書名は、The Board Building Cycle – Nine Steps to Finding, Recruiting, and Engaging Nonprofit Board Members

- 目的の実現のために必要な人的・資金的な資源を明確にする。
- 必要な経営資源の調達方法について、理事の参加も含め、方針を確立する。
- 必要な経営資源の入手を確立する。

3. 監督する

- 財務上の方針を確立し、実施・説明責任(accountability)を確立する。
- 関連法規や倫理的な基準の遵守を確立する。
- 発展を見守り、成果を評価する。

漠然としているこれらの全てが e-dream-s に該当する訳ではないが、このようなことも頭に入れながら、理事の職務を遂行していかなければと思う。

1年前の e-dream-s 理事会では、“貢献”が1つのキーワードであった。

「あなたは理事の一人として、e-dream-s にどう貢献しますか？」

ケネディ風に言えば、Ask what you can do for e-dream-s. Ask what together we can do for ---. (皆さんはここに何を入れますか？たとえば education？ the world？)になるのだろうか。労力や時間の提供、アイデア・企画の提供、能力・特技の提供、教育用写真の提供、資金の提供、専門家やコンタクトパースンの紹介、広報活動...などなど。一人ひとりの理事が、何にどう貢献できるのか考えた。

最近私が同感したのは、テレビ局アナウンサー八塩圭子さん¹⁰のインタビュー記事である。

私は今、ブランドマーケティングを勉強しているのですが、生きるということは、「自分というブランドをいかに確立できるか」だと思うんです。会社の中でも、自分はこういう価値があって、他の人にはできませんというものを作っていけないといけない。

会社や NPO などの組織も、そして個人も集団の中で自己を発揮しつつ自分の存在価値を高めていくことが組織の強化にもつながっていくと思う。そのためには、自分(たち)の強みを、意識的に武器にしていくことが必要だ。自分(たち)の強みは何なのか、得意な分野は何なのか、改めて考えできることを実行していきたい。

“理事会”を表す英語はいくつかあるが、e-dream-s では“Board of Trustees”を使っている。

¹⁰ “女から始まるニッポンの元気”

「丸の内キャリア塾」特別版、日経新聞 2003年4月22日

“trust”、つまり信用・信託・委託とそれによる責任や義務を表す言葉である。会員の信頼に応える論議や決定をすべく、しっかりと準備をして理事会に臨みたいと思っている。

カメルーン・ピグミーとの出会い(その1)

山田 昌子

カメルーンに行くなら、是非ピグミー族を訪問してみたい！私は密かに願っていた。カメルーン人の友人(ホスト)も「No problem! 一緒に行こう」と言ってくれた。とは言うものの、彼も詳しくは知らないらしい。私はモンゴルのゲル・ステイを念頭におき、相当大変なのではないかと考えた。訪問数カ月前から予防注射やマラリア対策などの準備をしながら思った：ピグミーはどんな人たちなんだろう。ピグミーはどんな所に住み、どんな生活をしているのだろうか？私たちは、訪問に際しどんな準備をしたらいいの？寝袋は必要なのだろうか？ドキドキしながら、訪問の日を待った。

手許の唯一日本で発行しているカメルーンの本を見ると(註1)以下のように書いてあった。が、果たしてそうなのだろうか？

カメルーンの降雨林の最初の住人は、おそらくアカ族(ピグミー族)だ。現在はごく少数しかいない。彼らの身長は120cmから140cmで、降雨林の環境によく適応している。彼らは狩猟採集民で、弓矢で捕った獲物の肉や皮革を、近隣のバンツー語系の人びとと、キャッサバ、バナナ、塩、槍の刃、衣類と交換する。

果たして、カメルーンに着くと、200以上あるという現地の言葉やフランス語ばかり。言葉が通じない、地図も手に入れることが出来ず町の地理がよくわからない、わからないことばかりの私たちはホストだけが頼りだった。リンベを経て、ホストの自宅のある首都ヤウンデに着くと、マナさんたちが出迎えてくれた。マナさんは、日本のJICAで働いたことがあり、東京でホームステイもしたことのある、自称親日派、Government High School Biyem-Assi(註2)の理科の先生だ。去年は、サッカーのワールドカップのため、来日しテレビで紹介されたこともあるそうだ。ホストは、私たちの学校訪問のアレンジのため、彼女と知り合った。マナさんは、ピグミー族をよく訪れ、以前ピグミー族のメイヤー(村長と言えいいのだろうか?)だったエサマ氏とも知り合いだった。エサマ氏は、子供の頃、ピグミー族の住

むビピンディの近くに住んでおり、ピグミー族と親しかった。また、医者になってからは、彼らの健康状態を診ることも多く、その結果信頼され、ピグミー族のメイヤーをしたことがあるらしい。現在も、ピグミー族の教育など様々な事柄に援助をしている（註3）。エサマ氏は、12月31日、ピグミー族訪問を予定しているので、私たちを、自分のランドクルーザーで連れて行き、しかも、ビピンディにある彼の豪邸に宿泊させてあげようと言ってくれた。私たちは、なんてついているんだろうか！

大晦日の午後、首都ヤウンデは、そよ風が心地よい、明るい爽やかな日だった。日本の家族や友人たちはどんな大晦日を過ごしているんだろう・・・と思いながら、私は、エサマ氏のお抱え運転手が運転するランドクルーザーで、エサマ氏、マナさん、ホスト、中川さんと、首都ヤウンデから西のビピンディへ行く小旅行に出た。大きなランドクルーザーでも、私たちの座席はいっぱいだった。エサマ氏宅まで、6～7時間はかかるという。途中、大きな市場のあるエセカ、そしてエサマ氏の故郷ロロドルフまでは、アスファルトのとてもいい高速道路だった。ロロドルフを過ぎると、土ぼこりがたつでこぼこ道になった。時折住民たちの姿が見られたが、男も女も子供も道ばたに立ち、車が通り過ぎるのをただ待っていた。真っ暗の林の中、何キロも歩いて家に帰るのか。ビピンディのちっちゃな街でビールを楽しみ（ビール以外は何もなかった）そこを過ぎると、急にラフィア（アフリカの竹）の葉が、フロントガラスをさえぎるくらい狭い道になった。両側に林がある以外何も無い。雨が降ると水はけが悪く普通自動車では決して通ることができないようなひどい道だ。電燈は勿論ない。いつの間にか日は暮れ、心細くなった。何も見えず真っ暗、自分たちの車の音以外何も聞こえない。でこぼこ道に、頑丈な車が揺れ、隣のホストと中川さんの体温が暑く感じられた。急に車の揺れが激しくなった。雨期に雨でゆるくなった泥がかたまり、でこぼこの度合いが半端でない。おまけに、前方を見ると、川に橋がかかっていなかった。あるのは、木切れが数枚。運転手が車から降り、ヘッドライトを頼りに木切れをタイヤの前方に移動させた。下は川、少し木切れがずれたり、タイヤがはみでたら、私たちはどうなるかわからない。ゆっくり木切れの中央をタイヤが動き、なんとか渡り終えた時、カメルーン人も日本人も皆運転手の技に拍手を送った。

進んでいくと、時折暗闇から人の姿が現れた。ピグミーたちだった。「ボナネ！（新年おめでとうというフランス語）」「ボナネ！」暗くてよくわからないが、皆フレンドリーなものを感じた。小柄で私たち日本人とあまり変わらない背たけのようだった。車の音を聞いて、点している家から家族が出て来て、エサマ氏に挨拶をしているようだった。会う度に、エサマ氏は車を止めさせ、彼らと言葉をかわしていた。時には抱き合ったり、エサマ氏が「その後

身体の調子はどうか」と聞いたり、また、彼らの方が「父の調子が悪いので、滞在中に診てくれ」と頼んだりしていたのだそうだ。エサマ氏と彼らのつきあいの深さが感じられた。車が発進する時、私たちもついつい「ボナネ！」と叫んでいた。

ようやくエサマ氏宅に着いた時、みなほっとした。午後10時をとうに過ぎていた。片道6～7時間どころか、もっと時間がたっていた。が、エサマ氏宅を見て、びっくり仰天。真っ暗な中に白く輝く、林の中の宮殿のようだった。玄関横には、屋根付きのバーベキューサイトがあり、庭も広かった。玄関を入ると、でっかいホールにはシャンデリアが輝き、大きなソファ、飾り棚、ダイニングテーブルがあった。ホテルのようだった。今晚泊めてもらう身としてはありがたかったが、ここにこんな豪邸を建設していいのだろうかという気もした。

すると、隣りから音楽が聞こえて来た。ピグミーたちは、大晦日ひと晩中踊りあかすのだそうだ。行ってみたい！中川さんと私は、なんだかうきうきしてきた。面白い大晦日の晩になりそうや！（つづく）

註1：「目で見る世界の国々(36) カメルーン」ジム・ハザウエー著、星野次郎訳、1996年国土社発行 p. 41-42

註2：e-dream-s 通信3月号カメルーン教育事情（その2）参照

註3：Fondation Camerounaise pour la Promotion des pygmees



エサマ氏らと



エサマ氏宅



ビピンデにて



ビピンデ村

ECAP 実行委員会報告

塚本 美紀

4月27日、神戸の藤澤氏宅で ECAP 実行委員会を開催した。参加者は、井川顧問、藤澤さん、稲川さん、山本（貴子）さん、小関さん、塚本の6名である。内容は：

1. 釜山・ソウル下見報告

藤沢さんより、4月の下見についての報告があった。韓国側の協力者の紹介があり、彼らとの連絡は、今後は塚本が引き継ぐことになった。

2. スケジュールとプログラムの内容

細かい内容について、現在検討を続けている。フェニックスパークでは、韓国人教師、日本人教師が互いの文化について理解を深められるような企画を検討中である。また、ソウルでは、異文化理解教材作成のために必要なフィールドワークをしたり、韓国の文化を理解するためのタスクを検討している。

3. 万博協会の助成金について

万博協会の助成金を受けることになり、そのための書類の提出について、小関さん、井川顧問より説明がなされた。今後の書類の作成は、稲川さんが中心に行っていくことになった。

4. 募集の方法

山本（貴子）さんが募集要項、申し込み用紙を作成中である。より多くの参加者を募るため、会員以外の参加も積極的に受け付けたいので、皆様の友人・知人に呼びかけをしていただけたらと思います。

5. ホームステイ

稲川さんを中心に、ホームステイを受け入れてくれる韓国人を募っている。現在数名の方から了解をいただいている。

だんだん8月が近づいています。気合を入れて、準備を進めていきたいと思っています。

ECAP 2003 Korea 第2回事前学習会報告（大阪）

稲川 宏美

4月26日（土）3時～5時、金剛学園 中、高等学校教諭：朴 圭相 先生をまねいて行きました。こちらがあらかじめお願いした、以下の内容が韓国の歴史教育ではどのようにあつかわれているか中心に教科書の抜粋などを資料にお話を伺いました。

内容 朝鮮通信史
豊臣秀吉
日韓併合
創始改名
伊藤博文と安重根
強制連行

事前学習用課題図書

呉 善花 韓国併合への道 東京・文春新書

中塚 明 これだけは知っておきたい日本と韓国・朝鮮の歴史 東京・高文研

井川先生からもテーマにそった基本的事項についての資料をだしていただきました。

朴先生から一つ一つのテーマにそって丁寧に説明していただきました。

特に以前から使われていた教科書から新しい教科書への変化の傾向について「日本との関係だけにとられずに、世界史全体の中でそのできごとがどのような位置にあるか、客観的にとらえた記述をしようとする流れがでてきた」と説明されていました。しかし、私達が考える日本と韓国との関係にかかわる豊臣秀吉、伊藤博文などの人物については韓国の教科書では一言名前が述べられるか述べられないか程度でほとんどの人は知らないこと、むしろ韓国の中で日本の侵略に対してどれほど抵抗が勇敢に行われたかが、記述の中心であること、創始改名などは、韓国人自身の内面的な心の描写を中心にした小説などによって紹介されるようになったなどということが印象に残りました。

私達自身も、今回このような学習会を開かない限り日韓の歴史について知らないことは多く、また、韓国でも歴史上の日本についての認識はそれほど詳しいものではないことがわかり、今後のECAPでの異文化理解教材作成の方法についてはさらに、いろいろな工夫があるのではないかと再認識しました。



学習会の様子



講師の朴先生

ECAP 2003 Korea 第2回事前学習会報告（東京）

岡田 かおる

日 時： 4月19日（土）16：00～17：45

参加者： 大竹、志村、富永、岡田、宮城、新谷、関根、塩脇、増田

ビデオ「司馬遼太郎 街道をゆく1」（湖西のみち・韓のくに紀行）の視聴を行い、その後、課題図書「街道をゆく（2）： 韓のくに紀行」を含めた感想、及び、韓国に対して思うところを各自発言しました。

- ・近代史を考えると両国の関係は他のアジアの国とは違い複雑であると感じる
- ・戦後補償がきちんとなされていないことが気がかりである
- ・創氏改名、朝鮮通信使など詳しく知らず勉強不足を感じた
- ・（沖縄出身の会員から）文化的に近いものを感じる
- ・（ご両親が滋賀県出身の会員から）自分のなかに渡来人の血を感じる

など、それぞれの視点から発言がありました。また、各自で読みすすめている本の紹介を行いました。

1. 「カメルーンツアー・チャータースクールツアー報告会」のお知らせ

昨年12月末～今年1月初めに行った「カメルーンツアー」、3月末に行った「チャータースクールツアー」の報告会を、以下の日程で行います。理事会に先立ち開催します。是非参加して下さい！

日時： 5月24日（土） 14：00-16：30

14：00-14：30 カメルーン・ツアー報告会

14：45-16：30 チャータースクール・ツアー報告会

会場： 神戸ベイシェラトンホテル& Towers 3階 宴会場「北野」
神戸市東灘区向洋町中 2-13
TEL 078-857-7000 FAX 078-857-7001
<http://www.sheraton-kobe.co.jp>

アクセス：JR 神戸線「住吉駅」(大阪駅より約 19 分、新大阪より約 24 分、三ノ宮駅より約 7 分) または阪神電鉄「魚崎駅」(大阪梅田駅より約 22 分、三宮駅より約 8 分) より六甲ライナーで約 8 分「アイランドセンター駅」下車、改札口左側徒歩約 1 分

* 直通路線バス (有料) もあります。

- ・ 新幹線「新神戸駅」より約 26 分
- ・ JR 神戸線「三ノ宮駅」南側より約 18 分
- ・ 阪急電鉄「岡本駅」より約 25 分

2. 第 12 回理事会のお知らせ

日時： 2003 年 5 月 24 日 (土) 17:00 ~ 25 日 (日) 12:00

会場： 神戸ベイシェラトンホテル& Towers
3 階「北野」(24 日)・「六甲」(25 日)

- 議題：
1. 2002 年度の事業報告、及び決算報告の承認
 2. 2003 年度の事業計画、及び予算の決定
 3. 役員人事 (改選) について
 4. その他

編集後記 通信の編集をしていると、日頃は離れた場所で、または目に見えないところで e-dream-s の活動を支えている多くの人たちが見えてきます。この通信の役目は e-dream-s について知らせると同時に、私たち自身を結びつけることなんだなあ、と感じています。(田辺恵美)

